

小学校社会科「基礎・基本を大切にしたい授業づくり」講座

調べて考えさせる授業づくりの実際

～問題解決的な学習の教材構成を視点にして～

広島県黒瀬町立下黒瀬小学校 教諭 松岡 靖

はじめに

今回の学習指導要領改訂の特徴として、社会科ではより一層「調べ考える」ことが重視されている。このことに伴い、「一匹の魚より魚の取り方を」、「学び方を学ぶ」等、学習技能・方法を学ぶことが求められている。しかし、「～について調べよう」といった課題や単に「調べ、まとめる」授業では、児童の思考を深めることは難しいのではなかろうか。なぜならば、そこから見つかるのは、社会的事象に関する記述的知識であり、メディアに載せられている事実を単に収集しているだけに過ぎないからである。問題は、「何を調べ、何を考えさせるのか」といった点にある。つまり、**意図的な教師のねらいに基づく授業づくり（教材開発）が必要なのである。換言すれば、目的のない調べ学習では、教師のねらいに到達させることは難しいと言える。**本発表では「調べて考えさせる授業」について、教材構成の視点から事例をいくつか紹介していきたい。

調べて考えさせる教材構成

学習指導要領に基づく「調べて考えさせる授業」では、基本的には問題解決的な学習過程によって、授業が構成される。こうした授業では、児童の興味・関心の高まりが不可欠となる。しかし、児童の興味・関心に引きずられ教師自身のねらいがはっきりしていなければ、児童の主体性ばかりに目がいき、児童の思考が拡散することは避けられない。**大事なことはその授業において、児童につけさせたい力を明確にさせた上で児童の主体的な学習参加を促すことである。**そのような授業を支えるのが学ぶ視点を明確にした教材である。**教材は児童の主体的な学習を支援できる「問い」を視点に構成する必要がある。**

次の文章は教材と問いの関係を整理したものである。

…教材はその役割から、「問い」を生む教材、「問い」を追究する教材、「問い」をまとめる教材、「問い」なおす教材とに分類できる。

「問い」を生む教材

「なぜそうなるのだろう」「どうしてそうなのか」といった子どもの既存の認識内容との乖離から来る子ども自身の「問い」を喚起できるよう用意する必要がある。その場合、特に実物などのモノや写真、資料などを有効に利用し、視覚的に興味関心を喚起できるよう構成することが大切となる。

「問い」を追究する教材

学習問題を追究する上での情報の源となる。その場合、豊富な情報量を持つことが条件であり、複数の教科書・資料集、副読本など印刷メディア、ビデオ、Webページなどの映像的メディア等を中心に構成すべきである。また、これらのメディアを子どもたちが複数の内から選択できるよう用意されることが、主体的な追究活動を可能にする上で大切である。

「問い」をまとめる教材

追究した後、様々な情報を再構成し、自分なりの自己決定を果たした内容を表現する媒体である。その場合、模造紙等だけではなく、ビデオ、Webページやパワーポイントなどの多様な表現と後の意見交流を可能にするメディアが有効である。

「問い」なおす教材

まとめた内容を吟味することを可能にする媒体でなければならない。その場合、学習形態との兼ね合いが出てくるが、学級内だけでなく、多様な交流形態が創出できるように、学習内容に沿った人材、Webページ上の掲示板など意見交流を可能にするメディアが有効であると考えられる。…

松岡靖「私が考える教材開発の基礎基本」『教育科学 社会科教育』明治図書、No.512、2002、5月、pp.24～27

## 授業づくりの実際

「調べて考えさせる授業」について、次の実践例を紹介する。

- (事例1) 小5 「わたしたちの生活と工業生産～地域の自動車メーカー“マツダ”～」
- (事例2) 小6 「徳川家光と江戸幕府」
- (事例3) 小6 「世界の中の日本～日本とつながりが深い国々～」

### <事例1>

#### 1. 単元名 「わたしたちの生活と工業生産～地域の自動車メーカー“マツダ”～」

#### 2. 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領「第5学年 内容(2)」に基づき構成したものである。

日本の工業生産は、原材料を加工し、その形や性質を変えて生活や産業に役立つ製品を作り出すことが特色である。その中でも自動車工業は生産量・生産額が高く、海外への輸出も多い。また、様々な産業やわたしたちの生活を支えていく上で自動車はなくてはならないものとなってきた。そこで、児童にとって身近な自動車メーカーである“マツダ”を取り上げる。

現在、自動車は消費者の多種多様なニーズに対応した完全受注生産方式で生産されている。この方式を合理化するために、様々なロボットやコンピュータが使われ、生産に関して様々な工夫がなされている。また、昨今の景気の低迷、円高、環境問題、国際化等、様々な社会状況からその対応を余儀なくされている。これらの自動車工業の対応と工夫を調べ、理解させることを通して、国民生活との関連を考えさせることが可能であると考え。更に、学習して得た知識を生かして、「10年後、乗るとしたらどんな自動車をつくってみたいか」と考えさせ、その自動車をデザインする中で、消費者のニーズや安全基準、環境問題など様々な視点についてバランスをとった自動車開発や日本国内のみならず、海外の生活環境や文化なども考えて開発を行っていることを学ばせていこうと考え、本単元を設定した。

#### 調べるポイント

- ・学習対象である「自動車」に関心を高めるために、Web教材の活用や聞き取り調査をさせる。
- ・「問い」を生むために、自動車の生産過程・立地場所に関する情報量の多い写真教材を活用する。
- ・「問い」を追究させるために、「問い」を分類し、グループ別の調べ問題を設定し、様々な調べ方法(Web・書物・ビデオ・教科書・資料集)を必ず活用させる。

#### 考えさせるポイント

- ・「問い」をまとめるために、グループ別に様々な調べ方法からの情報を比較させ、必要な情報は何かを考えさせ、多様なメディアを利用してまとめさせる。
- ・「問い」なおすために、学習したことに基づいて10年後自分が乗ってみたい車をデザインし、自動車会社関連の人と交流することを通して自動車工業の現状と未来について考えを深めさせる。

#### 3. 単元のねらいと指導計画

自動車生産の様子について意欲的に調べ、わが国の工業の発展やこれからの自動車産業のあり方について関心をもつ。 (関心・意欲・態度)

身近な自動車の聞き取り調査を通して、自動車と自分たちの生活とのかかわりについて考える。

自動車生産について、関連工場との協力、機械やロボットなどによる工夫、原材料の確保や製造の過程、製品の販売や輸送における外国とのかかわりなどを関連付けて考え、これからの自動車開発について考えを深める。 (思考・判断)

自動車生産の特色についてインターネット・本・写真・地図・統計及び工場働く人の声などを活用して調べ、調べたことを考え合わせながらわかりやすくまとめる。 (資料活用・表現)

自動車生産、輸送、販売の工夫から、多様な消費者のニーズ、社会的状況に応じて、多種多様な自動車が生産されていることを理解する。 (知識・理解)

指導計画（全14時間）

時	主な発問と学習活動	ねらい	教材・教具	評価方法
第一次	身近な人々がどんな理由から自動車を選んだか聞き取り調査し、交流する。 Web教材を活用して、マツダのいろいろな自動車の特徴などを調べる。	・身近な自動車調べやWeb教材の活用を通して、自動車に興味を持ち、様々な自動車が作られていることを知る。	Web ランキング表	ワークシート Webの記述内容
第二次	<p>いろいろな自動車はどのようにして作られているのか？</p> <p>自動車の生産過程や工場の立地について一斉学習する。</p> <p>疑問に思う点やさらに調べてみたいことを出し合い、まとめ、グループ別に調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境面、安全性、利便性について</li> <li>・生産の分業、流通について など</li> </ul> <p>グループ別に調べたことについて、必要な情報を選択してまとめる。</p> <p>グループごとに交流し、生産の工夫と流通の工夫を視点にまとめる。</p> <p>なぜ、マツダ自動車はこんなに工夫をして、多種多様な車を作っているのだろうか？</p> <p>意見交流し、消費者ニーズと社会的状況を視点にしてまとめる。</p>	<p>・自動車のおおまかな生産過程やどのような場所に工場を立地しているのかを理解する。</p> <p>・調べ問題について、多様なメディアを利用して、意欲的に調べる。</p> <p>・多様な情報のうち必要な情報はなんであるか考え、わかりやすくまとめる。</p> <p>・環境や安全性の対策、生産の分業、流通などの工夫をして生産がおこなわれていることを理解する。</p> <p>・これまで調べたことから、消費者ニーズと社会的状況に応じて、自動車が生産されていることを理解する。</p>	Web 写真  Web 教科書 資料集 ビデオ など 模造紙 パソコン (プレゼンテーションソフト) グラフ	ワークシート  ワークシート  まとめの 記述内容 ワークシート  ワークシート
第三次	<p>自分が10年後に乗るとしたら、どんなことを重視した自動車をデザインしますか？</p> <p>環境、安全性、性能、ユニバーサルデザイン、などを視点に予想する。</p> <p>10年後の自動車開発について同じ視点をもつ児童でグループを作り、自分たちが乗りたい自動車をデザインする。</p> <p>デザインした車を生産者と消費者の立場で、交流し、マツダ関係の方のお話を聞く。</p>	<p>・これまでに学習してきた自動車生産の工夫や10年後の社会がどのように変化しているかを関連付けて考え、これからの自動車づくりにおいて何を重視するか考えることができる。</p> <p>・消費者のニーズや安全基準、環境問題などの様々な視点に基づき、自分たちの自動車を表現する。</p> <p>・商品開発は、国内だけでなく、世界を視野に入れて行っていくことの大切さを理解する。</p>	Web 新聞 教科書 資料集  HPソフト  プロジェクター マツダの人	ワークシート  デザインペーパー  ワークシート
第四次	自動車工業の現状と課題について、まとめ感想を書く。 ペーパーテストをする。	・これまでの学習した結果を関連付けて、考え、まとめることができる。	教科書 資料集	ワークシート ペーパー テスト

4. 授業の実際（パワーポイントによる紹介）

## <事例2>

### 1. 単元名「徳川家光と江戸幕府」

#### 2. 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領「第6学年 内容(1)オ」に基づき構成したものである。

江戸時代は、徳川幕府のもと、約260年余り争いが無い安定した時代であった。この時代において米の耕地面積、生産高とも約3倍に飛躍し、また新しい技術、制度が開発され、明治以降の日本の近代化に大きな影響を与えた。このような長期にわたる政治体制の仕組みが確立されたのは、徳川家光のときである。生まれながらの将軍であった家光は、大名や民衆などを統制するためにさまざまな政策を打ち出した。

本単元においては、家光の政策を中心にした学習を構成することで、その時代を貫く仕組みを説明できる知識を得ることができ、また、家光という人物の問題解決的行為へ焦点をあてることにより、児童の主体的な学習を可能にすると考えた。

また、今回の学習指導要領から「歴史を学ぶ意味を考える」ことが、新たに加えられた。しかし、従来からの江戸時代の学習では、民衆の抑圧、搾取の上に支配体制が長く続いたといった見方が中心であり、現代の生活につなげて歴史を考えことは困難であった。そこで、家光が制度化した参勤交代を大名統制といった面だけでなく、現代につながる都市形成といった歴史的意義、また鎖国をキリスト教から国を閉ざした面だけでなく、世界の列強から植民地化を防いだといった歴史的意義についても学習できるよう教材化を図れると考え、本単元を設定した。

#### 調べるポイント

- ・学習対象である「徳川家光」に対する関心を高めるために、家光のエピソードなどがのったWebページなどの資料を活用する。
- ・「問い」を生むために、大名と将軍の関係、島原の乱等の絵画資料を活用する。
- ・「問い」を追究するために、多種多様な調べる方法(Web・文献・資料集)を用意する。

#### 考えさせるポイント

- ・「問い」をまとめるために政治的、経済的理由を人物の吹き出し記述できるワークシートを用意する。
- ・「問い」なおすために、現代地図と江戸時代の街道図、1600年の世界地図など既習したことを問いなおす資料を用意する。

### 3. 単元のねらいと指導計画

参勤交代、キリスト教の禁止と鎖国など、家光の政策に関心をもち、自分の問いを意欲的に調べようとする。  
(関心・意欲・態度)

参勤交代、キリスト教の禁止と鎖国などの追究を通して、江戸幕府の支配体制が安定していったこととの関連を考え、その制度の意味を広い視野から考え適切に判断する。

(思考・判断)

参勤交代、キリスト教の禁止と鎖国について、年表・写真・絵・地図・文書資料・Webページなどの各種資料を活用して、自分の問いを適切に追究し、江戸幕府が支配した仕組みについてまとめ、適切に表現することができる。  
(資料活用・表現)

徳川幕府が、政治的、経済的に大名を統制するために武家諸法度を定め参勤交代を制度化したこと、参勤交代が現代の都市形成に影響を与えたことを理解する。

徳川幕府はキリスト教の考えが国内に広がらないように、また植民地化されることを恐れ、鎖国の制度を確立させ、キリスト教の禁止や貿易の統制をおこなったことを理解する。

(知識・理解)

< 指導計画 (全7時間)>

時	主な発問と学習活動	ねらい	教材・教具	評価方法
第一次	<p>家光が外様大名に語った言葉から、家光はどうしてこんな言葉を使ったのか考え、意見交流する。</p> <p>家光は幕府の力を強めるために、どのような仕組みを作ったのでしょうか？</p> <p>予想から、徳川家光がとった政策について調べる計画を立てる。</p>	<p>・家光のエピソード,家光と大名の関係に関心をもち、人物の思いを想像することができる。</p> <p>・家光の政策について調べる計画を立てることができる。</p>	Web 絵画資料	ワークシート
第二次	<p>家光はどのようにして,大名をしたがえたのでしょうか？</p> <p>大名統制について、武家諸法度、大名配置図などの資料で追究し、その後話し合う。</p> <p>なぜ,大名は徳川幕府に反抗できなかったのだろうか？</p> <p>大名が反抗できない仕組みを家光、大名の立場で考え、ワークシートにまとめる。</p> <p>参勤交代は、よい制度だろうか？</p> <p>江戸時代の街道図と現代の地図、参勤交代にかかった費用などの資料を基に、参勤交代の現代への影響について意見交流する。</p> <p>参勤交代について自分の考えを明らかにする。</p>	<p>・予想を立て、資料から、大名支配について経済的、政治的理由に着目して考え、意欲的に調べる。</p> <p>・武家諸法度、大名配置図、参勤交代など大名を支配する仕組みがわかる。</p> <p>・参勤交代によって街道沿いに都市ができたことの関係がわかる。</p> <p>・都市形成と大名統制の相互の視点を入れて,判断する。</p>	Web 文献 教科書 資料集など  絵画資料 宿場町資料	授業観察 ワークシート  ワークシート  ワークシート
	<p>島原・天草一揆の絵画資料から、家光がキリスト教を禁止したことを知る。</p> <p>なぜ,家光はキリスト教を禁止し,鎖国をしたのだろうか？</p> <p>家光の取った鎖国政策について、その原因を教科書や資料集、文献、Web ページ等で追究し、その後、話し合う。</p> <p>鎖国制度についてワークシートにまとめる。</p> <p>鎖国はよい制度だろうか？</p> <p>鎖国の是非について立場と理由を考え、意見交流する。</p> <p>当時の世界地図等の資料から、植民地化される恐れがあったことを知り、是非について意見交流する。</p> <p>鎖国について自分の考えをまとめる。</p>	<p>・一揆の資料から農民の思いを想像することができる。</p> <p>・適切な資料を選択して、鎖国の原因について意欲的に調べる。</p> <p>・鎖国、キリスト教の禁止、貿易の統制など、対外政策の仕組みがわかる。</p> <p>・前時の学習を振り返り、鎖国について関心を高める。</p> <p>・国内事情、海外事情の双方の視点を取り入れて考え,判断する。</p>	島原の乱資料 Web 文献 教科書 資料集など	授業観察 ワークシート  ワークシート
	<p>徳川家光が確立した統制するための仕組みについてまとめ、感想を書く。</p> <p>自作ペーパーテストをする。</p>	<p>・家光がおこなった政策を関連づけてまとめることができる。</p>		ワークシート  ペーパー テスト

4 . 授業の実際 (パワーポイントによる紹介)

### < 事例 3 >

#### 1. 単元名「世界の中の日本～日本とつながりの深い国々～」

#### 2. 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領「第6学年 内容(3)」に基づき構成したものである。

「同化と排除の日本社会」と言われることもあるように、在日外国人住民に対して日本文化への一方的同化を求めたり、海外で生活する日本人が、その国の文化を尊重せず、日本文化を絶対視したりするといったことが問題となり文化摩擦を引き起こしていることがあると聞く。今後、国内ではさらに高齢化が進み、2020年には高齢者の割合が、全体の4分の1にまでなるといわれており、就労者人口の低下から、在日外国人・外国人労働者はこれまでよりもさらに増加していくことが予想される。これからの国際社会に生きる児童は、たとえ外国に行くことがなくても、異文化理解を深め、共に生きていくことのできる力を育てる必要があると考える。

今回の学習指導要領改訂により、6年生異文化理解単元は、「共生」を目指すことが目標となり、「子どもが数カ国から一カ国を選択して調べる」と児童の主体的な内容選択も特徴となった。そこで、児童に基層文化を中心とした文化事象を調べさせることを通して、日本とつながりの深い国々の文化に対する理解を深め、日本の文化について振り返る中で、共に生きるにはどうすればよいのかを学ばせることができると考え、本単元を設定した。

#### 調べるポイント

・学習対象である「日本とつながりの深い国々」に対する多様な関心に応じるために、日本と経済的、歴史的、地理的結びつきの深い国を選定する。

アジア	アジア	南北アメリカ	ヨーロッパ	アフリカ	オセアニア
大韓民国	シンガポール	アメリカ合衆国	フランス	エジプト	オーストラリア
中華人民共和国	フィリピン	カナダ	ロシア	南アフリカ	ニュージーランド
マレーシア	タイ	ブラジル	イギリス		
サウジアラビア	インドネシア	メキシコ	ドイツ		
インド		ペルー	オランダ		
			イタリア		

\* 太字は、各社の教科書において取り上げられた国を表す。

- ・「問い」を生むために、様々な国の衣食住や学校などに関する基礎的情報を持った教材 Web ページを活用する。
- ・「問い」を追究するために、様々な国のリンク集などを作成し教材 Web ページを利用して意見交流できるようにする。

#### 考えさせるポイント

- ・「問い」をまとめるために、様々な情報をまとめ、簡単に Web ページとして発信できるようにする。
- ・「問い」なおすために、発信した Web ページを調べた国の人々と交流できる場面を設定する。

#### 3. 単元のねらいと指導計画

日本は、経済や文化などで世界のさまざまな国々と深いつながりがあることに興味・関心をもち、つながりの深い国々について調べることに意欲をもち、  
(関心・意欲・態度)

世界の国の人々と相互に理解を深め合い、平和な国際社会の実現をめざして、共によりよく生きていくために、自分たちはどうしていくことが大切なのか考える。  
(思考・判断)

教材 Web ページ、資料集、新聞など資料を効果的に活用し、外国の人や外国での生活経験のある人に話を聞いたりして調べ、Web ページとしてまとめることができる。  
(資料活用・表現)

外国の文化や生活の様子を調べることを通して、文化や生活習慣の多様さや共通性に気づき、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解する。  
(知識・理解)

指導計画（全 13 時間）

時	主な発問と学習活動	ねらい	教材・教具	評価方法
第一次	<p>日本とつながりの深い国は、どんな国だろうか？</p> <p>日本とつながりの深い国はどの国だろうかを考え、その国にどのようなイメージをもっているか交流する。</p> <p>様々な国の衣食住に関する基礎的情報を調べ、自分の生活と比較し、文化や生活様式など自分が調べたい国を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国について知っていることや身近にある外国についてのイメージを話し合う中で世界には自分たちが知らないことや誤解していることがたくさんあることに気づく。</li> <li>・外国の生活の様子についての写真から様々な疑問や気づきをもち、それを交流する中で自分が調べようとする国を決めることができる。</li> </ul>	<p>外国の写真</p> <p>教材 Web ページ</p>	<p>授業観察</p> <p>ワークシート</p>
第二次	<p>日本と世界の似ているところと違っているところを探そう。</p> <p>自分の問いを整理し、調べていく視点（基層文化と学校）に関する調べ問題と予想を立て、教材 Web ページで交流する。</p> <p>リンク集や資料などから自分の課題について必要な情報を選択し、収集する。</p> <p>わからないことを掲示板を利用して、質問しあう。</p> <p>自分の課題について調べたことを Web ページとしてまとめ、発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べていく視点から、調べ問題と予想を立てることができる。</li> <li>・自分の課題に向かい意欲的に調べ、それぞれの国の文化や生活習慣などについて理解する。</li> <li>・調べた国の文化と日本の文化を比較し、共通点や相違点を視点にまとめることができる。</li> </ul>	<p>教材 Web ページ</p> <p>教材 Web ページ 資料集 教科書 など</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート 掲示板書き込み 教材 Web ページ発信</p>
第三次	<p>調べた国ごとに地域グループを作り、まとめたことと新たな疑問点を交流する。</p> <p>外国の方々と交流をする中で、新しく知ったことや自分の考えの変容をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが調べた以外の地域の国についての発表を聞き、文化や生活習慣の多様さに気づく。</li> <li>・外国の方と交流する中で、自分が考えていた以外の視点に気づき、自分の考えの変容などをまとめることができる。</li> </ul>	<p>プロジェクター</p> <p>教材 Web ページ</p> <p>外国の人</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p>
第四次	<p>世界の人々とともに生きていくためには、どうしていくことが大切なのか。</p> <p>これまで学習してきたことを振り返り、共に生きるためにどんなことが必要なのかを考えを交流する。</p> <p>ペーパーテストをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界には様々な文化様式があるが、共通した願いがあることを考え、自分の考えをまとめることができる。</li> </ul>		<p>ワークシート</p> <p>ペーパー テスト</p>

4. 授業の実際（パワーポイントによる紹介）